

部長	理事	課員	担当者

議 事 録 要 旨

会議名	第2回芦原温泉駅まちづくりデザイン部会
日 時	令和元年6月10日(月) 19:30~22:00
場 所	あわらし役所 101 会議室
出席者	<p><部会員> 市民/笹原修之(部会長)、高木めぐみ、西田幸男、八木康史 福井工業大学/川島洋一(教授) (一社)あわらし観光協会/津田香由紀 あわらし文化協議会/堀田あけみ あわらし商工会青年部/松川秀仁 花咲ふくい農業協同組合/唯内 努 芦原温泉旅館協同組合/山口賢司 農家カフェ/藤井和代 あわらしコミュ/圓道千鶴子 ゲンキッズステーション ASOVIVA!/長田康秀</p> <p><事務局> 新幹線まちづくり課/永井理事、翠補佐、赤神主任 商工労働課/中島補佐 観光振興課/堀江課長、細川補佐、杉本主事</p> <p><オブザーバー> あわらし/佐々木市長 (株)木下設計/木下貴之、片山雅哉、藤田陽一 (株)コム計画研究所/鈴木奈緒子</p>
欠席者	<p><部会員> 市民/森嗣一朗 花咲ふくい農業協同組合/山口利志実 音泉組/青柳淳一</p>
内 容	<p>1 開 会 2 市長あいさつ <u>市長:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線芦原温泉駅開業まで、あと4年を切り、沿線での工事も着々と進められ、形となって目に見えるようになってきた。 ・市では、昨年7月に、駅周辺のまちづくりの方向性を示す「まちづくりプラン」を策定し、このプランに基づき新幹線開業までの整備を完了させるため、現在は主に設計業務に取り組んでいる。

- ・駅周辺整備の中でも、特に、西口駅前広場（賑わい広場、賑わいホール等）をどうしていくのか、その周辺にある a キューブの活用をどうしていくのが課題となっている。
- ・広場が効果的に活用されるためには、ハード面の整備だけではなく、実際に広場を利用するプレーヤーの視線で必要な機能を取り入れることが重要で、いろんな分野でご活躍の皆様から様々なご意見をいただくために部会員の構成を今回大幅に入れ替えさせていただいた。
- ・私もオブザーバーとして、今後も部会に参加させていただく予定である。新幹線開業まで、限られた期間と時間の中でご負担をお掛けすることとなるが、本部会の趣旨についてご理解いただき、皆様のお力添えをお願いしたい。

事務局：

- ・本来ならば、本日より部会員となられる 10 名の皆様お一人お一人に委嘱状をお渡しすべきところではあるが、時間の関係上お座りいただいている席に置かせていただいております、ご了承願いたい。

3 部会長あいさつ

部会長：

- ・100 年に一度と言われる新幹線開業の時期に、現役世代として携わらせていただけるといふこともあり、この役を務めることを決意して現在に至っている。
- ・部会も最初のうちは、形の見えない中で夢物語を語り合っていたが、いよいよ形となって見えてきたので、今後はその形の中に市民の声をエッセンスとして加えていくことが重要だと考えている。そして、出来上がったものを最大限に利活用していくことが大切である。
- ・これまで他の施設整備に携わった経験から、「こういうふうにしたらいいのに」、「こうしたらもっと使いやすくなるのに」といった意見をよく耳にしてきた。言ったなら言ったなりの責任が伴うと思うし、そういう使い方をしていくべきである。プレッシャーをかけるわけではないが、これから部会を進める上で、言ったからには言ったなりの責任を持って施設を利活用していく、そういった意識で臨んでいただくようお願いしたい。

4 部会員紹介

- ・部会員、オブザーバー、事務局の順に一人ずつ自己紹介

5 協議事項

(1) 芦原温泉駅まちづくりデザイン部会のこれまでの取組について

事務局：

- ・資料 2 とスクリーン（資料なし）を基に、部会のこれまでの取組を説明

(2) 芦原温泉駅周辺まちづくりの概要について

事務局：

- ・資料 3 ～ 5 を基に、芦原温泉駅まちづくりプランや駅周辺整備の工程等を説明

事務局：

- ・資料6・7を基に、西口駅前広場の概要と進捗状況を説明

事務局：

- ・(1)部会のこれまでの取組、(2)芦原温泉駅周辺まちづくりの概要について、質問等があればお願いしたい。

市長：

- ・先ほど部会の取組について事務局より説明があったが、誤解があるといけないため補足する。
- ・竹田川等の周辺エリアについては、財源上の問題からも、計画を休止している。まずは、駅直近部（西口駅前広場等）が成功しないと次のステップはないと思っている。開業後に、状況を見ながら、竹田川等の周辺エリアを手掛けるかといった議論をもう一度行う必要がある。よって、部会員の皆さんには、西口駅前広場等の駅直近部のハード面、セミハード、ソフト面について議論していただきたい。
- ・平成31年3月に策定したあわら市観光振興戦略を配付するので、この戦略を念頭に置いて駅周辺まちづくりの議論を行っていただきたい。駅前の整備だけで完結するのではなく、産業振興や市全体の活性化に結び付けていくことが重要である。
- ・人口減少が進んでいるように見えるが、実際には居住する外国人が増えている、全体数は減っていない。例えば、5年前に0人だったベトナム人が現在は160人を超えている。外国人労働者を受け入れる方針の企業もいるので、今後はもっと外国人が増えてくるだろう。観光振興戦略のコンセプトを「和心あふれる 国際的な感幸地」としているのも、インバウンドの強化や外国人労働者の受入、また障害者や高齢者の駅利用を積極的に促す意図を含んでいることをご理解いただき、今後の検討をお願いしたい。

部会員：

- ・3点質問させてもらう。①観光振興戦略の話があったが、まち・むらときめきプランも市の施策の柱となっていると認識している。ときめきプランと駅周辺まちづくりの関係性はどうなっているのか。②賑わいホールと賑わい広場以外の、魅力体感スペースやカフェ等の利活用についても部会で検討を行うのか。③まちづくりプランのコンセプト「和心あふれる賑わい空間」や地域ブランド「あぁ、あわら贅沢。」などとどう連携して進めていくのか。

市長：

- ・①市長就任時のH30.2大雪の際に、集落のコミュニティ力の低下を目の当たりにして、まち・むらときめきプランを策定することとした。集落の課題は集落によってそれぞれ違い、課題を克服していく中で地域が活性化していく、これがときめきプランの考え方である。例えば、新しいものを開発してみようとする動きから地域の宝が生まれ、その地域が活性化する。あわら市の観光地はあわら温泉だけではない。各集落が地域の宝を磨き上げ、新幹線開業効果を各集落に広めてもらうために市民の皆さんにその一役を担ってもらいたいと考えている。
- ・②魅力体感スペースについては、もう少しすれば素案ができてくるので、それをたたき台に意見してもらった方がよいと思う。カフェは、昨年度からスターバックスに働きかけているが、直営店の誘致は難しい状況なので、関連の会社にカフェだけでなくちょっとしたレストランや物販も含めて総合的に経営するような手法でスターバックスを誘致

できないか調整しているところである。この部会では、賑わいホールや賑わい広場の活用方法や、a キューブとの連携などを中心にご提案をいただきたい。例えば、「イベントをやるのにこれくらいのステージがほしい」、「これくらいの照明は最低限必要である」、「音響はこんなに大きいものはいらない」などのご意見をいただいて、それを市側で検討して基本設計に反映していきたい。

- ・③「ああ、あわら贅沢。」の最終的な目的は、市民や県民の自信と誇りにつなげて活動力を高めていくことにあると思う。観光協会では、「大切な人を世界一幸せにするまち」という売り込みをしている。現在、感幸プロモーションビデオを制作しているが、観光、ふるさと教育、移住・定住などいろいろなシーンで使いたいと考えている。これらを総合して、観光振興戦略に掲げる「和心あふれる 国際的な感幸地」のコンセプトのもと、駅周辺まちづくりにも取り組んでいきたい。

部会員：

- ・西口駐車を立体駐車場にするとのことだが、東口駐車が満車にもなっていない状況でそんなに駐車場が必要なのか。近くに大きな商業施設ができるというのであれば理解できるが、財政が厳しいと言っている中で矛盾しているように感じる。

市長：

- ・東口駐車場は、半分を月極駐車場としている。西口は表玄関であり、西口にある2つの市営駐車場約200台分は、土日は午前10時頃にはほぼ満車状態である。イベント実施の際にはもちろん満車となる状況である。駅に行ったけれど駐車場に停められなかったなどというマイナスイメージを持たれてはいけない。あわら市、坂井市、永平寺町、勝山市に在住の約16万人を対象に使ってもらえる駐車場として整備するものである。福井駅も駐車場が不足しており、駐車料金も高いことから、芦原温泉駅に来てもらえるような働きかけも必要だと考えている。

部会員：

- ・福井駅は、民間主導で駐車場を運営しているように思う。行政がお金を投じて整備しなければならないものか。

市長：

- ・時間がなかったこともある。民間主導で整備が進めばよいが、開業までにその確約は取れない。ただ、新幹線沿線のどの駅も階層建ての駐車場を整備している。これは、雪が降った場合に対応できるためでもある。

部会員：

- ・柿原区でまち・むらときめきプランの策定に携わった際に、柿を売り出そうという話があった。しかしながら、まだまだ勢いが足りないため、今後、賑わい広場など発表できる場があって、多くの人たちに見てもらうことで自分たちの自信につながるとよいと思う。こうした形で、駅周辺以外の人たちにもまちづくりの意識が芽生えていくとよいと思う。

部会員：

- ・先日、京都外国語大学の学生39名が来て、あわらのまちをフィールドワークした際に、イベントにせよ何にせよ観光する側のニーズにもっと耳を傾けてほしいという意見が一番多かった。今後の駅周辺のまちづくりを進める中でも取り入れるとよいと思う。

部会員：

- ・賑わい広場の説明を聞いて、ガラス戸のことなど、細かいことに対しても、今後、文化協議会として意見していきたいと思う。

部会員：

- ・部会員の中に音楽イベントなどを手掛けられているプレーヤーも多くいるので、その方々にハード面に対する意見を言ってもらえると有意義だと思う。また、その先にある誘客やイベント企画等のプロモーションをどのように行って集客するのかなどのソフト面の検討も行っていけるとよい。
- ・ハピテラスでは、まちづくり福井が中心となってイベントを実施し、賑わいを創出しているかと思うが、賑わい広場も第三セクターが運営するようなことを想定しているのか。

市長：

- ・人が集まれば、そこで何かをやろうとする人が出てくると思う。そのために、七夕やクリスマス等の時期にイベントを実施したり、メロンの季節にメロンフェアを開催するなどの仕掛けは必要であろう。市民の力でそれができることが理想だが、ハピテラスもそうであったように、最初のうちは行政の応援も必要であると考えている。運営組織をどうするのかについては、次の段階で議論したい。

部会員：

- ・休校となった波松小学校でイベントをした自身の経験から、不便なところであっても、企画力と広報の仕方がしっかりできていれば、人が集まること（2日間で6千人を集客）を実感した。新しくできる賑わいホールは、全天候型で便利だと感じる。この空間で、どうしたら人が来てくれるかであったり、プレーヤーが何かをやってみたいという魅力を私たちが発見していくことがこれからの課題だと思う。

部会員：

- ・西武福井店で子ども向けのフィットネスイベントを行った際に、子どもが行きたいところというのが親の出掛ける動機となっていることを実感した。子どもの笑顔や元気な姿には人を引き付ける力がある。常設のキッズスペースに興味を引き付けるものがあって、それと連動したイベントができると、イベント目的で来た人もキッズスペースに足を運ぶなどの相乗効果が得られると思う。また違う日にキッズスペースに遊びに来て、違ったイベントに足を運ぶような流れができれば、自分たちプレーヤーとしてもやりやすい。

市長：

- ・魅力体感スペース内にキッズスペースを設ける予定である。子どもの遊具を設けたり、フリースペースにして子どもの作品を展示したり、親子で楽しめる空間にしたいと考えている。イベントもそうだが、カフェ等との連動も図っていきたい。

部会員：

- ・ASOVIVA!ではアナプテーションという考え方（環境に適応することで身体能力が変わる）を取り入れているが、自分たちが子どもの頃にやっていた木登りは、今は危ないからという理由でやらせないことで育たない能力がある、だったら安全な環境で体験できるスペースをつくって子どもの運動能力を伸ばすことも可能である。このような発想を取り

入れた検討もお願いしたい。

部会員：

- ・ どういったお客が新たに来るのかという話の中で、駅利用者は通勤・通学の目的が多いと思うが、先ほどの話を聞いていると、インバウンドとビジネスマンを増やしたいということか。

市長：

- ・ 賑わい広場は、駅利用者のためだけではなく、市民（住民）と観光客を含めた交流の場である。例えば、先ほど波松小学校でイベントをやった話があったが、賑わい広場でミニイベントをやってPRし、本番は波松に行ってもらおうといった使い方も考えられる。

部会員：

- ・ 金津創作の森で行うイベントに出店することがよくあるが、テナントがいっぱいなら賑わい広場にも出店してもらってその後に創作の森に行ってもらおうようなつながりができたらよいと思う。また、創作の森の作家さんの作品はすごく価値があるので、飲食店で活用できるとよいと思う。
- ・ 現在、駅前を花できれいに飾ってあるが、あのような活動は是非継続してもらいたい。
- ・ 福井駅や三国で若い人たちがアイデアを出し合ってそれを後押しするような取組が始まっているが、そういった環境づくりや勉強会も並行して行っていけるとよいと思う。

部会員：

- ・ 二十数年前に福井駅に来たときに、駅前に行けば何かあると思ってタクシーで行ったが真っ暗で何もなくて残念だったことを覚えている。芦原温泉駅前も平日の日中はほとんど人がいない状況かと思う。若い人たちが集まる時間帯である夜か土日に騒げる場所があったらよいと思う。例えば、パブリックビューイングやライブを行うことができる施設になると人が集まると思う。人が集まる場所にお店が集まり、そこにまた人が集まるような好循環が生まれるとよい。

部会員：

- ・ 市民のプレーヤーに主に利用してもらおうとおっしゃっていたが、市民のプレーヤーは限られていると思う。たしかに、あわらにも若い子のプレーヤーはたくさんいる。だけど、あわらではやってくれない。理由は、あわらでやるのがダサいからと彼らは言う。彼らの価値観はそうなのかもしれないが、場所ではなく見る人があなたたちの価値を判断するのだと彼らには言っている。とはいえ、そのような現実はあるので、市民のプレーヤーのためだけのホールづくりはまずいと思う。ハピリンでイベントをやっているプレーヤーにも使ってもらえるホールづくりを目指してほしい。

市長：

- ・ 誤解を招いたかもしれないが、市民以外の方にもプレーヤーになっていただきたいと思っている。ただ、市民に使われない広場では周りの人も使いたいと思わないと思う。ハピリンも最初は閑散としていたが、市民が努力してPRして今の状況にまで発展した。

部会員：

- ・ ハピリンの集客は、(一社)エキマエモールの企画力の賜物だと思う。

市長：

- ・ そのような人たちをどのように育てていくかのアイデアをいただきたい。

部会員：

- ・普段から彼らのような人たちを起用していくことに尽きると思う。

市長：

- ・まちづくり会社を設立するとなると、ペイできる仕組みづくりが必要である。こういう組織づくりやソフト面の提案も今後いただきたい。

部会員：

- ・ハピリンの場合は、福井駅の乗降客数が多いので、イベントをやっていることを知らない人でも足を運ぶようなこともあるのであろう。芦原温泉駅の場合は、乗降客数5千人（目標値）の中で、福井駅にはない独自価値をいかに見出せるかが、この部会に与えられたミッションだと思う。

部会員：

- ・昔はおもしろい場所に若い人が集まったが、今はお金儲けができないと若い人たちは集まらない。なので、お金儲けができる仕組みづくりの検討を行っていただきたい。例えば、イベントも身一つでモノだけ持ってくれば売れるような設えにするといった計画性のある場所をつくってほしい。動力はあっても準備に必要なお金のことまで考えると、若い人たちが出店するハードルは高くなると思う。

市長：

- ・金津創作の森のクラフトマーケットは全国から出店者が集い、大変賑わっている。

部会員：

- ・自分も出店しているが、素晴らしいイベントである。あれをシャトルバス前に乗る前に駅前でもやっているということをやるとおもしろいのではないか。

部会員：

- ・あのイベントは、創作の森の森の中でやるからいいのではないか。

部会員：

- ・何年か前に創作の森と駅前と中央公民館で同時に開催して、まちを巡ってもらおうという計画があったが実現しなかった。

部会員：

- ・作家さんの作品を置いてもらうだけでも違うのではないか。

部会員：

- ・作品一つ一つに保険を掛けなくてはいけないので、費用がかかる話にはなる。

部会員：

- ・作家さんに駅前に行ってもらって体験もできる形でやるなど検討できないか。県外の出店者には創作の森で出店してもらおうとよい。

部会員：

- ・いい発想である。作家さんに来てもらってそのような試みをやったこともある。

部会員：

- ・過去に a キューブで出店したことがあるが、福井市や鯖江市で同じようなワークショップをしたときには1日50人は来たにもかかわらず、a キューブではお客ゼロであった。宣伝のやり方がうまくできていないことや、出店者に対する事前説明が不足しており、この人に聞けばわかるといった体制づくりや人材育成も課題であると思った。

市長：

- ・駅前全体のマネジメントについても、どこかの団体を母体にするなど、組織づくりに取り組んでいかないといけないと思う。

部会員：

- ・先月の連休に地元秋田に帰省した際に、山間のところに昨年オープンした道の駅おおゆに行ってきた。この道の駅を建築設計したのが世界的建築家・隈研吾氏で、おしゃれな建物の中に少し高めのおしゃれな工芸品や地元の野菜などが並べられていた。しかしながら、連休のど真ん中だということにお客が全然入っていないくて、地元から浮いてしまっている施設だと感じた。これは、お客が何を求めているかをわかっていないから、こういう状況になっているのだと一目で思ったし、こうならないように地元の人たちが使いやすい施設づくりを行わないといけないと感じた。
- ・これから行うハード整備の話し合いと並行して、ルールづくりをしっかりとっていかないといけないと思う。農業系、商業系、イベント系のいろんな人がプレーヤーとして活用していくにしても、ルールづくりを間違えると使いにくい施設となってしまう。例えば、音のここと、時間のことなど、一歩間違えると使いたいけど使えないという事態になり得る。

部会員：

- ・地元の人が集まって賑わいを創出してこそ、観光客に魅力を感じてもらえるのだと思う。そのために、常時駅前に人が来るような施設であったり、そのようなサイクルを生み出す仕組みづくりが必要である。例えば、海外でやっている早朝エアロビクスのように、朝にラジオ体操や太極拳を行ったり、子どもだけでなく大人も楽しめるスポーツ器具を設置したりすると、竹田川でジョギングしている健康志向の人たちにも使ってもらえる施設になるのではないかな。
- ・イベントとしての軽トラ市やワゴン市もよいが、常時利用できる屋台のようなものがあるって、朝にきららの丘で売っているような地元の特産物が買えたり、学校帰りの時間帯に高校生や中学生がおこづかいで買えるものが売っていたりするとよいと思う。学生も今は学校までの送迎が主流となっているので、駅前に行きたくなるような魅力づくりができると駅前が子どもたちの待合場所になったり、送迎する親世代が駅前に来るような流れがつかれるのではないかな。

市長：

- ・上越妙高駅前ではコンテナでそのような取組を行っている。芦原温泉駅でも実現可能だと思ふ。

部会長：

- ・a キューブの運営を行っているが、これまで静かだった駅前でいきなり音楽のイベントを行うと反発が起きたりする。これは、約 10 年前に芦原温泉街に屋台村をつくったときも同じであった。何年かすれば慣れるのかもしれないが、まずは、眠りに入ってしまった駅前であることを前提に議論を行ってほしい。a キューブで月 1 回フリーマーケットを行っているが、10 名くらいの出店者が固定的に来てくれるようになった。実際には、集客が悪いので、ほとんど儲かってはいないのが現状である。しかしながら、これは、将来新幹線が来ることを見据えて、賑わい広場で何かする際の出店者を確保する目的もある。a キューブは、まだ開発されていない駅前の試験的スペースと捉えているが、現

在のaキューブの状況を見てもらうと、「こういうイベントを行ったらいいのに」、「私だったらこうするのに」といったことを肌で感じると思う。会議だけでは議論は進まないと思うので、まずは駅前の現状を体感してもらうことから始めてほしい。興味を持ってそれを行動に移してもらえれば、ヒントは見えてくるはずである。一発花火のイベントでは息は続かないと思うし、500万円の補助金をもらってイベントをやっても準備は大変だし1年に1回くらいやっただけという結論に終わってしまう。これは賑わいでないと思う。駅前に行く理由を一つずつ増やして、駅前の交流人口を増やしていくことが大切である。できるだけ早い段階で皆さんに関わっていただき、動きとなって見えてくると次の段階へ進むのは早いのではないかと思う。例えば、駅前に人が増えてくることで、移動販売をやってみようなどいう動きになってくると思う。

- ・賑わいホールについては、市民が使いたくなる魅力的な場所であることが理想で、市民に愛され、市民が誇りに思えるような運営を目指していくことが重要である。自身の経験からも、まちおこしグループが自分の仕事を抱えながら片手間で運営を行うには限界がある。持続可能な賑わいを創出するには固定的な事務局が必要だと感じている。プレーヤーもいつも決まった人が頑張っているように見えがちだが、違った人が何か一つやってみることから広がっていくとよいと思う。

部会員（福井工業大学教授）：

- ・皆さんの話を聞いていて、今後がすごい楽しみだと感じた。部会員の皆さんは、市民の中でも意欲的で頑張ってくられた方々だと思うが、多くの市民の方は役所がやってくれるものだと思っていると思う。施設ができた後は、市民の方々が何ができるかで全部結果は決まってくると思う。投資して何かをやるのは限界があり、お金をかけずにできることを追求していくほかない。市民一人一人が自分にできることを考えて、大儲けできなくてもここでやったことが楽しいとか、あわらを盛り上げていることが幸せだと思えるような、新しい日常生活ができるとまちは変わっていくと思う。逆にこれができないと、まちは開発されたけどイマイチという結果になってしまう。今は分かれ目の大事な時期であり、ここからがいよいよ本番である。
- ・「再開発+市民のパワー」の両輪がないとまちづくりの成功はないと思っている。市民のパワーはリノベーション（古い建物を再生して新しい価値に変えていく）だと思う。リノベーションは新築よりお金をかけずに新築の魅力と違った次元でまちに魅力を与えていけるものである。そのような物件が増えてくると、エリアリノベーションとして地域全体が活気付いてくる。これは、全国の地方都市でやろうとしていることである。みんなが頑張ったら、どのまちにも人口が増えて、どのまちにも観光客が来るというわけではない。今より増えることはあるかもしれないが、急激に増えることはないので、そういうことがなくてもみんなが幸せになれるということが究極に目指さなければならないことである。シビックプライドという言葉があるが、市民一人一人が誇りを持ってこのまちに暮らして、みんなが幸せな気持ちになれることが究極の目標である。逆説的にいうと、みんなが割り切ってお金をかけずにリノベーションしよう、お金をかけずに暮らそうとやっているうちに、それが本当の魅力となる。観光そのものが変わっていて、観光地を巡るという観光はもうそろそろ終わるであろう。では何を見に来るかという、そこに住む人が普段どんな暮らしをしているのかを味わいに来る時代になるであ

ろう。そういった意味では、「ああ、あわら贅沢。」は素晴らしいステートメントを考えたと思う。普段の暮らしを見に来てもらうようなまちづくりを進めることが大切で、その手法の一つがリノベーションであり、その他農家の人やいろんな人たちが自分の持っている場所をどう魅力的に変えていけるか、それを市民の人たちが毎日の生活の中で楽しんでいけるかということである。金津創作の森は世界の最先端だと思っているが、せっかく来ても宿泊機能がないため来ない人たちも多い。東尋坊や恐竜博物館にも人は来ているが、福井市や金沢市に宿泊しており、あわらとしては取り逃がしている。そういう人たちをもっと暮らしが見たくなるような工夫が必要であり、自分としても学生も取り込みながら一緒にやっていきたいと思っており、今後もお願いしたい。

(3) 今後の予定について

事務局：

- ・資料8を基に、部会の今年度のスケジュールを説明

部会員（全員）：

- ・意見、質問なし

(4) その他

【次回開催日時】

- ・6月24日(月)19:30～ あわら市役所 101 会議室

4 閉 会

事務局：

- ・長時間にわたり貴重なご意見、また活発に議論いただきありがたい。次回以降もよろしくお願いしたい。